

大相撲九州場所

豪風は前頭9



豪風

【豪風】

北秋田市出身の郷土力士をみんなが応援してる。

日本相撲協会は31日、大相撲九州場所(13日・福岡国際センター)の新番付を発表した。北鹿出身力士で先場所、前頭東9枚目で7勝8敗と負け越した豪風(26)は本名・成田旭、北秋田市出身、尾車部屋。先場所と枚数は変わらず、前頭西9枚目だった。先場所は7勝7敗で迎えた千秋楽で時空に敗れ、苦戦した場所では昨年の九州場所以来の負け越しとなった。

心和む音色

開善で大正琴演奏会

鹿角市花輪六日町の関善家母屋(旧・関善酒造)で23日、大正琴・花かげ会(加藤栄子代表)による「第3回演奏会」が行われ、秋にちなんだ曲などを披露し、詰めかけた大勢の市民らを楽しませた。NPO関善賑わい屋敷(奈良東一郎代表)の主催。この日は、花輪の市日の開催日ということもあり、たくさんのお買い物客らもあつた演奏を披露した。

客らが来場した。曲目は「里の秋」「人生劇場」「北国の春」「知床旅情」などの12曲。華やかな衣装を着た会員は、手先にも集中しながら、息のあった演奏を披露した。



開善で行われた大正琴演奏会

北鹿新聞より切抜

自信作が並ぶ「書朋展」誌の発行に伴い、昭和56年10月に県立美術館で書人展を開催。これをきっかけに、鹿角では60年から書人鹿角会が「書人鹿角展」を開いてきたが、平成9年に「書人」誌が廃刊したことから、翌年から書朋展として引き継いでいる。

【まちのそよ風】

開善では様々なイベントが行われています。ちょっとのぞいてみるのも、ボランティアかもしれません。いつでも気軽に!

達筆振るった力作
きょうまで「書朋展」
鹿角市の書道グループ・書朋会(成田伸世会長)の第8回「書朋展」が21

会員募集中!!



日から花輪の旧関善酒造で始まり、会員らの達筆を振るった力作が並んでいる。23日まで、開善市田原町にある「書人鹿角会」の書道家・佐藤清龍さんを中心とした「書人鹿角会」が主催する。

ぬくもりある作品

開善で「あかり展」

鹿角市花輪六日町の関善で18日から、スタンドグラスとキャンドルの作品展「あかり展」が開かれ、ぬくもりのある明かりが広がり、来場者の心を落ち着かせている。23日まで。

作品は、市内外の愛好家らでつくるスタンドグラスサークル「煙(三浦)



スタンドグラスなどを集めた「あかり展」
哲雄代表と、大館市を中心に個展や講演などを行っている小林順子さんによるもの。木造がふたんに使用されている歴史的建造物で、共通する明かりの作品のジョイントを築き上げてもらうと聞いた。

【この一冊】

『春の蜘蛛』
作: 奈良東一郎
(発売: 犀書社)

空想を忘れて
はた
全2の人々へ
東一郎氏
待望の才2弾!

(V) 例えは、地域の活性化は今も絶望的である。自治体の役割も、これに付随して当然に変化しなければならない。協力関係が対鎖的・排他的なものではなく、新しい協力関係はネットワーク型と呼ばれる開放的でさまざまな異質な参加者も拒まず、それを活用していくというものである。いわゆる「すりあわせ」。「すりあわせ」によって既存の資源や人材を有効活用し、新しい可能性や展望を切り拓くことが基本姿勢である。～と。

まさに、開善賑わい屋敷の活動は、佐々木氏の言うそのものの活動であると実感したところである。家屋の曳家から、現在の色々なイベント活動、日常的な賑わいの創出活動等々、成果はまだまだ途上の観はありますが、活動のすばらしさや努力の輝きは、着実に市民に認められつつあります。行政も側面から応援

していきたいと考えます。とにかく街づくりの核として関係する方々の総力を結集して盛り上げ、必ずや成功への道を歩むことをご期待いたします。



【賑わい応援談⑤】

教育長 織田育生様

『新しい風のおこり』

国も自治体も行政改革はま、たおしの段階に来っており、小泉内閣も三位一体改革の仕上げと言うわけで、伝家の宝刀を今まさに抜かぬかばというところのおこり。

民でできることは民で、官でやらなければならぬことは官で、と言うけれど、官民共同作業であるオミセクターのほとんどが失敗しているのが実態のようで、住民の要求は、強烈である。結果は大変にきびしい。

先日のさきがけ紙上「時評」の中で、佐々木毅氏は、およそ次のようにおっしゃる。～今はわれわれ自身が関わる身近なところでの社会的協力のあり方が問われている。行政依存型の協力関係が存在感を失えば失うほど、今やどうした支援を当てにしない、自発的・自下からの新たな協力関係の構築が大きな社会的課題になるのである。それには(カ)

